

## 子どもたちが 「アクション」

講師を招く出前講座の時間は限られます。1回目の講座の後、城東中は日常の授業で学んだ内容を発展させ、近くでビーチクリーンも行いました。

海外から漂着したごみが多いと想像していましたが、実際に拾ってみると島の人たちが投棄したと見られるごみも見つかりました。子どもたちからは地域の人にごみを捨てないよう呼び掛ける看板を立てる案も出ました。「気がきか生まれたことで『アクションを起こしたい』と動き出している」と阿部さん。子どもたちの成長ぶりや、それを引き出した学校の取り組みに拍手を送りました。

ビーチクリーンをする城東中学生



大小さまざまなごみが見つかった



出前講座①を受けて

学校独自の取り組み

出前講座

1

## 世界の課題、自分ごとに

阿部さんの1回目の授業は9月、1年生の総合学習の時間に2校時連続で行いました。

城東中ではすでにSDGsを学んでいます。各生徒の理解度を合わせるため、冒頭には改めてSDGsの概要を学びました。

世界の貧困や環境問題から説明した後、地域に引き寄せるため、子どもたちの関心が高い「海」に注目。「ゴール14・海の豊かさを守ろう」とそれを構成する10のターゲットを説明し、これらに関連する新聞記事をデータベースから検索しました。子どもたちはタブレットを操り、

楽しみながら関心のある記事を絞り込んでいきます。

大切なのは世界規模の社会課題を身近な課題に引き寄せて「自分ごと化」すること。その手段として、今回はギガスクールと組み合わせ、記事データベースを活用しましたが、壁新聞を作って発表し合う「回し読み新聞」、SDGsカードゲームなど多様な方法があります。記事データベースを活用した同様の授業は糸満市でも行われました。



城東中での出前講座の様子



出前講座

2

## 校内に目を向け キャリア教育にも

年間のまとめとなる、阿部さんの2回目の授業は2月。もう一度自分たちが過ごす場に目を向けて、校内でSDGsのゴールに関わるものを探すゲーム形式の「校内クエスト(探求)」を行いました。

紙ごみ、給食の食べ残し、電気の消し忘れ、教師の仕事…と生徒の目線で見つかるものはさまざまです。まずは自分たちの日常にも課題があることに気づき、次に「ごみ

を処理するのは誰か」「食べ物を作るのは誰か」とその担い手に注目し、さまざまな仕事で社会を支えていることに気付くよう促します。

「仕事とは社会に役立つことをして対価を得ること。SDGsを介することで、給料や華やかさだけではない仕事の意味や、仕事と社会とのつながりを理解できる」。阿部さんはそう話し、次年度に行うキャリア教育への「種」も仕込んでいます。

# SDGs 出前講座

2020年の小学校を皮切りに学習指導要領が改訂され、「持続可能な社会の担い手を育む教育」が今まで以上に重視される一方、先生方からは「どう授業に取り入

れているか分からない」といった声が聞こえます。多忙な中で新しいことを自分で一から学ぶのは大変です。そんなときには外部の講師を招いて先生方も生徒と一緒に教わる方法もあります。

県教育庁のSDGs達成のための教育推進事業では2021年度、SDGs 未来ラボ（福岡県）代表の阿部昭彦さんを招いた出前講座を宮古島の城東中で開きました。阿部さんはSDGsへの理解を広げる講座や研修を九州や沖縄の企業や自治体、学校で開いています。

出前講座は9月と2月の2回で、その間の期間は学校独自の取り組みを進めます。外部の力をうまく利用しながら、子どもたちが地域社会や世界とのつながりを理解し、持続可能な社会の創り手として育つコツを報告します。

## SDGsを授業に取り入れるときに大切なこと 「日々の積み重ね」に気付く

文部科学省は新指導要領に盛り込んだ「持続可能な社会づくりの担い手」を育てるために「地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、その解決に向け自分で考え、行動する力を身に付ける」としています。鍵になるのは「自分ごと」。

フリカの飢餓や気候変動によるヨーロッパの熱波は大問題ですが、それを「自分ごと」にするのは大人でも大変です。阿部さんは「今日の社会は誰が作ったか。一人ひとりの毎日の暮らしの積み重ねでしか世界は作られない」と話し、子どもたちが「世界を作っているのは私たち」と認識できるよう、さまざまなたとえ話を駆使します。

また世界の課題に決まった正解はありません。自分なりの考えで行動していくには、子どもたちの自由な発想を引き出し、伸ばすことが大切です。「失敗を恐れず楽しんで参加できる空気作りを大切にしている」と阿部さんは言います。

阿部昭彦さん

一般社団法人SDGs未来ラボ代表理事。  
各種SDGs認定ファシリテーターとして九州・沖縄を中心に活動中。



糸満市・高嶺小での出前講座の様子

阿部さんから  
ひとこと

各地の学校でSDGsの講座をしますが一番響いているのは先生だという印象があります。

本を読んでも、子どもたちに教えられるほどの納得が得られるとは限りません。講座の後に先生たちから「もやもやがすっかりした」と感想をもらうこともあります。外部の力をうまく活用するのもSDGsにある「パートナーシップ」です。

SDGsは子どもだけではなく大人もみんなで取り組むもの。「世界を作るのは私たちだ」という原点がその場にいるみんなの心に響き、それぞれが動き出すきっかけになればと思っています。